

TC46/SC8 ウィーン会議報告 永田治樹

ISO/TC46/SC8/WG 4 (図書館パフォーマンス指標)

日時：2015-10-14 09:00 – 12:00

場所：オーストリア規格協会（ウィーン）

議長：Claire Creaser（英国）

出席者：フィンランド、フランス 2 名、英国、ノルウェー、デンマーク、ドイツ、日本、韓国 2 名

2．出席者自己紹介(省略)

3．議事次第承認

4．議事

次の各国からの話題提供のあと、以下の検討が行われた。

電子資源の学生の成功に対する関連性の把握。「ライブラリーバロメタ」(デンマーク)
BIX が終結したがなおデータは使える。ただしベンチマーク報告は作れなくなった(英国)
インパクト規格の作成、COUNTER と整合するデータの扱い(フランス)
2789 と 16439 の翻訳(フィンランド)

国内での「予約」の定義の ISO 規格とずれている、また、ISO 規格の職員カテゴリーが現状では、意味をなさなくなっている(日本)

公共図書館への予算カット、学術図書館の統計項目の削減が深刻。パフォーマンスや統計よりもインパクトへの関心(英国)

ソーシャルメディアに関連するパフォーマンス指標がこれまでない。作成する必要がある。

図書館(位置)の距離と人口に対する指標の検討を始める必要がある。

指標の例示が欲しいとの意見がある。しかし、図書館の状況によってその意味は異なり、どのように扱うかを検討し、ベンチマークを扱う新しい章は設定したい。

国立図書館の指標に関しては、基本的には別の規格で対応する。

図書館の研究調査に関する支援、とくにスタッフ時間について新しい指標を設けたい。

開館時間として公示しているところよりも、むしろ職員が配置されている割合が問題ではないか。

ワシントン会議で検討されたソーシャルサービスについて、カナダとスペインの意見を求めるよう接触する。

上記の議論から各課題についての原案作成担当者を決めた。

2016 年 2 月までに各人からの原案を提出し、次回に検討

2018 年に次期改正を実施する